



六郷中だより

六郷中学校だより 第8号

令和8年10月6日

発行・文責：校長 宮澤 研



R8全国学力・学習状況調査の結果と今後の対策

全国の中学3年生を対象に実施した令和8年度の「全国学力・学習状況調査」の本校の調査結果の概要をまとめました。今後の対策と併せて報告します。

1 調査の目的

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その成果と課題を明らかにするとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 実施生徒

国・公・私立学校の中学校3年生の全生徒（おおよそ8万4千人）

3 実施日

令和8年4月22日（木）…英語（3技能）・生徒質問紙調査

4月23日（金）…国語・数学

5月 7日（木）…英語（話すこと）

4 調査内容

（1）教科に関する調査（国語・数学・英語の3教科の学力調査）

- ・各教科において、身につけておくべき内容や実生活において活用できることが望ましい知識、技能
- ・知識、技能を実生活に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力

（2）質問紙調査（学習状況調査）

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問

5 教科に関する調査（学力調査）結果の概要と今後の対策について

（1）六郷中3年生の各教科の平均正答率と全国平均（公立）との比較

	国 語	数 学	英 語
全国平均との比較	やや下回る	同 等	同 等

※全国平均との比較は、次の基準によります。

かなり上回る	10ポイント以上、上回っている場合
やや上回る	5ポイント以上～10ポイント未満、上回っている場合
同 等	±5ポイント未満の中に入っている場合
やや下回る	5ポイント以上～10ポイント未満、下回っている場合
かなり下回る	10ポイント以上、下回っている場合

（2）各教科の分析

【国語】

※CBT(PC上での解答)で実施

- ・全14問における国語の学習指導要領の内容ごとの正答率と全国平均（公立）との比較

「言葉の特徴や使い方に関する事項」…かなり下回る

「話すこと・聞くこと」…かなり下回る

「書くこと」…同 等

「読むこと」…同 等

- ・出題の趣旨ごとに分析すると

「単語の活用を理解している」「表現の効果を考えて描写することができる」「文書の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができる」については、上回りました。

一方「助動詞の働きについて理解している」「単語の類別について理解している」「必要に応じて質問しながら話の内容を捉える」「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈の意味を捉えることができる」については、かなり下回り課題がみられました。

【 数学 】

※CBT(PC上での解答)で実施

- ・全15問における数学の学習指導要領の領域ごとの正答率と全国平均（公立）との比較

「数と式」……………同 等
「図形」……………同 等
「関数」……………やや下回る
「データの活用」……………やや上回る

- ・出題の趣旨ごとに分析すると

「累積度数の意味を理解している」では、かなり上回りました。「2直線が平行になるための条件を理解している」「起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができる」「箱ひげ図と四分位数の対応について理解している」について、上回りました。

一方「統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する」「具体的な事象を基に証明する事柄の仮定を見いだす」では、かなり下回りました。また「反比例の関係を表す特徴を捉えてxの値に対応するyの値を求める」「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」「筋道を立てて考え、証明する」「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明する」については、やや下回り課題がみられました。

【 英語 】

※CBT(PC上での解答)で実施

- ・全14問における英語の学習指導要領の領域ごとの正答率と全国平均（公立）との比較

IRTスコア ……………同等
「聞くこと」……………同等
「読むこと・書くこと」……………同等
「話すこと」……………同等

※IRTスコア～異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じ尺度で比較できる。各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500点を基準にした得点で表す指標。

- ・出題の趣旨ごとに分析すると

「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理しまとまりのある文章を書くことができる」「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる機能を身につけている」について、かなり上回りました。また、「日常的な話題について、自分の置かれた状況などを判断して、必要な情報を聞き取ることができる」「社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えなどの理由を述べる」「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる」については、課題がみられました。

6 質問紙調査（学習状況調査）から明らかになった本校生徒の傾向について

◇全国と比較して良かった（10ポイント以上、上回っている）質問項目

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- ・将来の夢や目標を持っている。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- ・学校の勉強のことに、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話をしますか。（毎日）
- ・PC、タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用している。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- ・学級での話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる。
- ・総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器をつかって情報を集めたり、整理したり発表したりできている
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

◇全国と比較して良かった（5ポイント以上、上回っている）質問項目

- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- ・自分にはよいところがある。
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
- ・人が困っているときには、進んで助けている。
- ・あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されない。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- ・PCやタブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができる。

- ・友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習時間に取り組んでいる。
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

◇全国と比較して課題のあった（5ポイント以上、下回っている）質問項目

- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。
- ・自分でインターネットを使って、情報を収集することができる。
- ・各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。
- ・1、2年生のときに受けた授業は自分に合った教え方や、教材、学習時間などになっていた。

7 まとめ（今後に向けて）

教科に関する調査については全国平均と比べ、国語は「やや下回る」、数学は「同等」、英語は「同等」という結果になりました。また、各教科とも単元によって正答率に大きな差があるため、全国平均を下回った単元においては、日常的に振り返り学習の機会をつくり取り組みます。

また、各教科の分析より「語彙力」「自分の考えをしっかりとまとめる」ことについて、課題が浮かび上がってきました。各教科においてもこの点に重点を置くとともに、今後ともRTP（六郷中対話プロジェクト）を継続して、この2つの力の育成を図ります。

質問紙調査（学習状況調査）においては、全国と比較して、「自分で学び方を考え、工夫することができる」「情報を収集することができる」「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」「自分に合った教え方や、教材、学習時間となっていた」の4項目が、大きな課題となりました。今後、町独自の「みさと学（ふるさとキャリア教育）」を中心に、探究的な学習を重点的に推進して行きます。上記で課題となった力は、探究的な学習において自ら学習を進めていく上でも重要な力です。各教科の学習とともに、「みさと学」を通してこの力の育成を図ります。

生活面においては、「起床時間や就寝時間の長さ」、「朝食の摂取率」など生活習慣は確立しており、また「自分にはよいところがある」「先生や友達にいつでも相談できる」「違う意見が否定されない」など、安心安全な学校生活を過ごしている様子がうかがえる結果です。また、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」など、未来に向けた意義や、社会貢献に関する意欲はとても高いとの結果が出ました。これから高校進学や将来に向けてのキャリア教育において、更に学びの機会をもちたいと考えます。

しかし一方では、就寝時刻が午前零時過ぎであったり、スマホ等の端末利用時間が極端に長い生徒がいます。また、それと同時に家庭学習の時間が短く、特に土日など学校が休みの日の学習時間が1時間未満が6割、そのうち全くしないが4割を超えているという結果が出ました。学校でも毎日の課題として、毎日2ページの「学びノート」を課していますが、授業で学習した内容を定着させるためには、家庭学習が重要となります。1日24時間のうち学校や睡眠の時間を除いた中で、効率よく生活を送るためにも、端末利用（動画視聴・ゲーム・SNS）等の時間を減らすことが大切です。

今後は、教科における課題と、質問紙調査で明らかになった「休日平日を問わず、自ら計画を立てて、家で勉強する時間の確保ができるように」という目標をもち、ICT機器の活用も継続し、日常の学習活動がより主体的となるよう生活指導や授業改善に取り組みます。また、生徒一人一人の家庭学習が自主的に継続的なものになるよう、引き続き課題解決を図っていきます。

8 ご家庭へのお願い

2学期より「中間テスト」を「単元末テスト」に切り替えました。各教科単元終了時に実施することにより、今までのテストよりテスト範囲が狭く、同一日に他のテストがないため生徒にとっても1つの教科に集中して受験できます。また、各教科の達成率や定着度をより正確に把握し、その結果をもって期末テストに臨むことにより、更なる学習内容の定着を図ります。なお、1週間前には単元末テストの実施日とテスト範囲を周知し、単元末テストの結果は従来の中間テストと同様に評価に用います。

スマホ等の端末利用（動画視聴、ゲーム、SNS等）時間については、利用時間が長く大きな課題があります。睡眠の大切さについては、本年度も外部の講師を招聘し、10月1日に全校で学習会を実施いたしました。睡眠時間の確保や学習時間の確保に向けては、学校でも指導していきますが、生活全般のリズムやスマホ等の端末利用時間については、再度ご家庭のルールも含めてご検討をお願いしますとともに、引き続きご家庭でもご指導をお願いします。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いします。